

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 9 日現在

機関番号：21501

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26463236

研究課題名(和文) 看護基礎教育課程における統合実習の評価基準構築に向けた実践事例集の作成

研究課題名(英文) Making examples of Integrated Practicum for build the evaluating criterion in the nursing undergraduate curriculum

研究代表者

片桐 智子 (KATAGIRI, TOMOKO)

山形県立保健医療大学・保健医療学部・准教授

研究者番号：90299793

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,600,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の目的は、複数の看護系大学の統合実習実践事例から学生の看護実践能力を評価する統一した基準を見出し、それを全国看護系大学と共有し、各大学の評価基準の改善や学生の看護実践能力向上につなげることである。

研究者が所属する5大学の統合実習の実践事例を収集した。文献検討に基づき看護実践能力と評価について研究会議で検討し、従来の評価基準では評価できない「知識・技術・思考と心の表現」からの評価の視点が必要との共通認識を得た。以上をふまえて実践事例を検討した結果、統合実習の評価基準には、実習目標以外に看護の本質や学習状況の評価を含む必要があり、統合実習の評価は多層性の構造を成すことが示唆された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this study was that find universal criterion to evaluate the nursing practical ability of students from the integrated practicum examples several University, and share it with the Nursing Universities, and contribute to improving the nursing practice ability of students, improvement of the evaluation criterion of each University.

We collected the integrated practicum examples at five Universities which researcher belongs to. Based on the literature review, we discussed nursing practice ability and evaluation criterion, and got the required perspectives from “the expression of knowledge, skills, thoughts and mind”, in the research conference. Results above, considering the integrated practicum examples, we found it was required containing the essence of nursing, the study situation and practicum goals in the evaluating criterion. It was suggested that it form the multilayer structure of evaluation of the integrated practicum.

研究分野：成人急性期看護学 理論看護学

キーワード：評価基準 看護実践能力 看護学教育 看護の本質 学習状況 思考過程 アート＆サイエンス

1. 研究開始当初の背景

平成 20 年の保健師助産師看護師養成所指定規則第 4 次改正により、「統合分野」に「看護の統合と実践」が設けられ、統合実習（以下、統合実習）などの名称で実施されている。統合実習に関する文献では、複数患者受け持ちなどの早期経験を特徴とする報告が多くを占めた。また、個別的ケア能力の確認が必要という指摘はあるが、体験内容や評価方法は明らかにされておらず、評価基準としての普遍性がないという課題があった。

本研究の共同研究者らは、統合実習における個別ケア能力についての課題や評価方法の具体を明らかにする必要性、ならびに、看護基礎教育課程における統合実習の看護実践能力について検討し、4 年間の教育の集大成となる統合実習における看護実践能力とは、医療チームにおける看護過程展開の能力であるという考えにいたった。

そこで、統合実習の評価のためには、実際実施している統合実習の実践事例を収集し、統一した評価基準をもとに実践事例を検討・類別していくことが、普遍的な評価基準の構築、および、学生の看護実践能力の向上につながるかと考え、本研究を計画した。

2. 研究の目的

本研究の目的は、複数の看護系大学の統合実習実践事例から学生の看護実践能力を評価する統一した基準を見出し、それを全国看護系大学と共有し、各大学の評価基準の改善、および、学生の看護実践能力向上につなげることである。

3. 研究の方法

(1) 看護基礎教育課程カリキュラム最終段階

「看護の統合と実践」で実施されている看護学実習（統合実習）の実践事例を、共同研究者が所属する大学 5 校において収集し、研究者会議で事例を共有する。

(2) P. Benner の実践能力の基準および文献検討に基づき統合実習に対する評価基準を作成する。P. Benner の実践能力の基準および文献検討による統合実習の評価基準の検討・作成、作成した評価基準に基づく事例検討のための研究者会議開催、国内学会における事例作成方法・作成した評価基準についての発表・情報交換

(3) 評価基準に基づき収集事例を評価し、国内学会において研究成果を発表、評価についての必要な情報を発信する。

4. 研究成果

(1) 共同研究者が所属する大学 5 校において、研究への協力が得られた学生の統合実習の実践事例を 1 例ずつ収集した。研究者会議にて、各大学の統合実習の実態や取り組み、および実践事例についての情報を共有した。各大学の実習形態、および、共同研究者の専門領域が、基礎看護学、成人急性期看護学などさまざまであることから、収集した実践事例を記録するフォーマットは、各大学使用のものをベースに各大学が作成し、各大学の実習の特徴が浮き彫りになるようにした。

(2) 統合実習に関する文献について、統合実習がカリキュラムに標準的に実施されるようになった時期の 2005 年から 2016 年までの 13 件を検討した。その結果、統合実習における対象理解、夜間実習や複数患者の受け持ちによる学び、統合実習の学びを通して発展する自己教育力やキャリアビジョンなど、学生の成長が明らかにされていた。しかし、看護

実践能力に結びつく「知識・技術・思考と心の表現」をどのように評価したのか、実習評価方法について述べたものはみられなかった。統合実習において、受持ち患者の情報と看護の必要性を示し、学生のかかわりが患者の健康状態に変化を与えたといえるのかは不明であり、それでは統合実習時点の学生の看護の実態に迫ることができない。統合実習は基礎教育課程修了時の看護実践能力を示すことが期待されることから、統合実習の普遍的な評価基準構築の必要性が示唆された。

文献検討をふまえ、研究者会議では実践事例数例をもとに学生の看護実践能力と評価のありかたについて検討した。その結果、大学ごと設定した評価基準では評価できない、個々の場面から得られる学生の状況および看護実践のレベルを分析すること、つまり、従来の評価基準に、看護実践能力に結びつく「知識・技術・思考と心の表現」の視点を加えた評価基準構築の必要性について共通認識が得られた。

第 36 回日本看護科学学会学術集会で交流集会を開催（参加者 70 名）し、A 大学の実践事例を発表・意見交換を行った。意見として、「学生の各場面の状況の丁寧な分析と統合実習段階における実践のレベルを基準として作り上げていく可能性」、「ルールに則った実習だけではない、現場で展開中の看護への学生の関与」、「さまざまな基準を学生自身がどこまで出せるか、現実との関係性が一つの到達度の評価」、「現象を共有しその意味を取り上げながら目指すところに向けた基準の共有」、「アート&サイエンスという視点からの評価」等が出された。これらはいずれも従来の評価基準では評価できない、学生の思考過程および実践のレベルの評価のために活用できると

考えられた。これらをふまえさらに検討した結果、評価の視点として、統合実習の体制（カリキュラム、実習目標、実習記録、成績評価）、対象学生が受け持った患者の情報、統合実習の目標達成の観点から注目した学生と患者のかかわり場面の再構成、統合実習中の教授 - 学習過程の再構成、統合実習後の教授 - 学習過程の再構成、統合実習の目標達成状況が導き出された。

(3) 収集した A・B・C 大学の実践事例について、上記(2)の評価の視点からで評価した結果を以下に述べる。

【A 大学の実践事例】

4 学年前期。実習目標は「チームにおける看護の役割と責務を理解し連携して看護が実践できる」。50 代男性。既往歴は糖尿病と高血圧。胸痛にて救急搬送、右冠動脈ステント部閉塞による急性心筋梗塞のため再ステント留置術後 CCU に収容。術後は異常なく翌日ベッド上自動座位、高血圧食が開始されたが「油っこい食事なら食べる」と病院食を拒否。

学生は受け持ち患者が退院し実習があと 1 日半という状況。学生は看護師から患者の情報を得てたまたま関わった場面。患者は反応を示さなかったが、回復のためなんとか食べて欲しいと話す学生に「パンならまだいいのに」と答え、学生は「食べられそうなものがある」と考え看護師に相談。栄養士も交え協議しパン食に変更となり、患者は食事を食べるようになった。看護師から学生の関わりを聞いた教員は、実践が看護だったか学生に振り返りを勧めた。学生は実習終了後すぐ別領域の実習があるため教員は学生と関わりを持ってなかった。学生は食事摂取が患者の回復につながる大切さを考え看護師や栄養士も巻き込み患者は食事をするようになった。

これより実習目標は達成したと評価した。学生は心疾患に合わせた病院食を拒否する患者に無反応でも諦めず関わり、漏らした言葉を拾い看護師につなぎ医療チームの対応を変え、実習目標を達成したと評価した。しかし患者の食生活やセルフケア能力に変化はなく看護の必要性は依然高いのに注目していない。つまり学生の看護を、実習目標から設定した従来の評価基準のみでは測れない知識・技術・思考と心の視点も加え、患者やチームに影響を与える看護の創造力、即ちアート性は高いが、健康状態のアセスメント、即ちサイエンス性は低いと評価した。以上より、統合実習の評価基準には、実習目標に基づく公式な評価以外に学生の行った看護の本質を評価しており、統合実習の評価は多層性の構造を成すことが示唆された。

【B 大学の実践事例】

4 学年前期。実習目標は「チームアプローチの能力を高め、自己の看護観の発展をはかる」。壮年期女性。血液腫瘍疾患で入院8ヵ月目に大きな治療を2回受けた。現在、同様の治療の継続か、延命目的の治療か、医師の方針決定待ち。医療系学部出身者だが文科系の職種を選び数年勤務し専業主婦。学生は、治療後の感染と免疫異常を併発する患者の安楽を促す目標を立て、治療後の発熱と倦怠感に応じた日常生活援助を行った。学生は治療後の造血期における活動と休息のバランスの必要性を患者は完全には理解できたかわからないと評価した。指導者は医療リスクが高く方針の目途が立たないと現状を解説すると、学生は「治療効果が望めないのであれば、後悔しないような生活を送ってほしいと思う。でも、私はどう介入していいのかわからない。家族もいるから」と述べた。実習終了後の

看護学セミナー統合で教員は、患者の生命力を信じ、代謝の恒常性の維持と造血期の身体回復を支える日常生活の意味とケアの価値を伝え、患者の望みを確認し、医師の専門的判断に偏ることなく、患者中心の医療方針の決定プロセスを進んでいたかと疑問を伝えた。

学生は患者の望みを聞いておらず、現場の決定プロセスは患者中心にはないと答えた。学生は、チームアプローチが進まない現場で日常生活ケアを行ったが、現場の葛藤や閉塞感を知るに留まり、実習目標を達成していないと評価した。しかし実習指導者も加わったチームが看護の専門性を発揮せず、医療チーム内の連携も進まず、学習状況としては困難性が高いのに、教員が現場と連携しなかったことが実習目標未達成の要因だった。以上より、学習状況が実習目標達成に影響することから、統合実習の評価基準には、実習目標以外に学習状況の評価を含む必要があり、統合実習の評価は多層性の構造を成すことが示唆された。

【C 大学の実践事例】

4 学年後期。実習目標は「看護を必要とする人々と適切な関係を築き、対象のニーズに基づいた看護を実践できる能力を養う」。50代男性。右被殻出血。路上で倒れている所を救急搬送され、開頭血腫除去術施行。入院5ヶ月目。JCS3 桁の状態が継続しており、ADLは全介助を要する。一人暮らしで、キーパーソンとなる兄弟は他院に入院中。学生は、口腔ケア時にケア物品が挿入されると歯をくいしばり、効果的なケアが行えていないことから、ケア前に上肢と咬筋をほぐすマッサージを行った。初日はケア途中で開口困難となり歯の表面のケアに留まったが、実習後半は、短時間で広範囲の口腔ケアを実施した。学

生は「タイミングを変えて実施したらうまくいった」と話し、教員が具体的な状況を問うたところ、「患者の口唇が緩んだタイミングを見てバイトブロックを入れ、ケア中筋緊張が高まった時にマッサージを取り入れるとうまくいった」と、患者の反応を観察し、反応に合わせて実践したことを説明した。実習終了後、教員は、この患者にとっての口腔ケアの意味を学生と共有し、学生がつかんだケアのコツを病棟スタッフと共有したか尋ねた。

学生は、病棟スタッフとケアの共有はしていないと答え、自己の実践について、「毎日のケアを通して状態観察を行うことで対象の特徴をつかむことができ、その都度適切に対応することが可能となる」と振り返った。

学生は、実施困難であったケアを実施できたことから、実習目標を達成したと評価した。しかし対象への効果的なケア方法について、現場スタッフとの情報共有は行っておらず、ケアの継続に至っていなかった。つまり学生の看護実践能力を、対象の本来のニーズを満たす看護実践には至らなかったと評価した。以上より、統合実習の評価基準には、実習目標に基づいて評価をする際に、看護の本質から学生の看護実践能力を評価するための指針を設ける必要性が示唆された。

これらの実践事例の検討から、統合実習の評価基準には、実習目標以外に看護の本質や学習状況の評価を含む必要があり、統合実習の評価は多層性の構造を成すことが示唆された。これらの研究成果を、統合実習の普遍的な評価基準構築に向けた実践事例として国内学会で発表・共有する予定である。

5. おもな発表論文等

(研究代表者、研究分担者には下線)

[学会発表] (計4件)

片桐智子、和住淑子、錢叔君、河部房子、山岸仁美、新田なつ子、寺島久美、戸田肇、宮里智子、高橋幸子、丸山香織、前田隆、学生の実践事例から統合実習における看護実践能力と評価基準を考える 統合実習評価基準構築に向けて、第36回日本看護科学学会学術集会、2016年12月11日、東京国際フォーラム(東京都・千代田区)

片桐智子、山本利江、和住淑子、錢叔君、河部房子、山岸仁美、新田なつ子、寺島久美、戸田肇、嘉手苺英子、宮里智子、丸山香織、前田隆、看護基礎教育課程における統合実習の評価基準構築に向けて 統合実習の取り組みの実際から、第35回日本看護科学学会学術集会、2015年12月5日、広島県文化交流会館(広島県・広島市)

片桐智子、丸山香織、前田隆、総合看護学実習における学生の学びの質的分析および実習教育のあり方に関する研究 第三報(成人看護学系)、第34回日本看護科学学会学術集会、2014年11月29日、名古屋国際会議場(愛知県・名古屋市)

片桐智子、山本利江、和住淑子、錢叔君、河部房子、山岸仁美、新田なつ子、寺島久美、戸田肇、嘉手苺英子、宮里智子、丸山香織、前田隆、「統合看護学分野・統合看護学実習のあり方とその評価方法に関する研究」研究素材・分析方法についての検討、理論看護研究会第11回研究討論会、2014年8月15日、沖縄県男女共同参画センターにいる(沖縄県・那覇市)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

片桐 智子 (KATAGIRI, Tomoko)
山形県立保健医療大学・保健医療学部・准教授
研究者番号：90299793

(2) 研究分担者

山本 利江 (YAMAMOTO, Toshie)
千葉大学・看護学研究科・教授
研究者番号：70160926

(3) 研究分担者

和住 淑子 (WAZUMI, Yoshiko)
千葉大学・看護学研究科・教授
研究者番号：80282458

(4) 研究分担者

銭 淑君 (CHIEN, Shu Chun)
千葉大学・看護学研究科・准教授
研究者番号：50438321

(5) 研究分担者

河部 房子 (KAWABE, Fusako)
千葉県立保健医療大学・健康科学部・教授
研究者番号：00251843

(6) 研究分担者

山岸 仁美 (YAMAGISHI, Hitomi)
宮崎県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：30185863

(7) 研究分担者

新田 なつ子 (NITTA, Natsuko)
宮崎県立看護大学・看護学部・非常勤講師
研究者番号：10172727

(8) 研究分担者

寺島 久美 (TERASHIMA, Kumi)
宮崎県立看護大学・看護学部・教授
研究者番号：00272336

(9) 研究分担者

戸田 肇 (TODA, Hajime)
北里大学・看護学部・教授
研究者番号：80286369

(10) 研究分担者

嘉手苺 英子 (KADEKARU, Eiko)
沖縄県立看護大学・看護学部・学長
研究者番号：70117571

(11) 研究分担者

宮里 智子 (MIYAZATO, Tomoko)
沖縄県立看護大学・看護学部・准教授
研究者番号：80382456

(12) 研究分担者

高橋 幸子 (TAKAHASHI, Sachiko)
沖縄県立看護大学・看護学部・助教
研究者番号：60344975

(13) 研究分担者

丸山 香織 (MARUYAMA, Kaori)
山形県立保健医療大学・保健医療学部・助教
研究者番号：20448624

(14) 研究分担者

前田 隆 (MAEDA, Takashi)
山形県立保健医療大学・保健医療学部・教授
研究者番号：30261217